

(二〇一五年度)

1 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は20ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、監督から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

数学はどのような科学であろうか。

¹ まず最初にあげるべきはその普遍性であろう。数学の命題は世界中のいかなる人間にとつてもなんらの差別なく理解できる。そういう普遍性をもっている。そのことは人間の知性が民族や習慣のちがいを超える共通性をもっていることにより証拠でもある。それは偏狭な民族主義や人種的偏見にたいするもつとも力づよい反証である。普遍性のもう一つの側面は数学という学問が全人類の協力によって創りだされたという事実である。近代に入ってから確かにヨーロッパ人の貢献がきわめて大きい、古代、中世においてはアジア人の功績に帰せられるものがきわめて大きいのである。とくに江戸時代の日本人の業績(和算)は同時代において第一級のものであった。

そういう意味では数学は全人類的な科学といってよい。このことは数学を教えるさい、いろいろの機会に生徒の注意をよび起こしておくことが望ましい。偏狭な人種差別ともつとも無縁な科学が数学なのである。

² それに劣らず重要なのは数学の歴史性である。いうまでもなく、数学は天文学とともに最も古い科学であり、その確証をあげることにはできないが、学問としての数学は新石器時代の開始後まもなく発足したのではないかと思われる。つまり数学は他のあらゆる科学と同じく、天の一角から天下つてきたものではなく、人間と人間の集まりである社会によって歴史的に形成されたものである。

この歴史性ははじめにあげた普遍性と矛盾するかのよう¹に考える人もあるだろう。2 + 3はいついかなる時代にもまたどのような人にとつても答えは5になる。つまり時間と空間を超越した真理だから、歴史性などありえない、という主張もありうる。だが、この考えは一面的である。2 + 3という思考そのものが旧石器時代の人間にはできなかったかも知れないし、また答えは同じ5でも途中の思考は異なることがあるし、またたし算の考え方そのものにもいろいろの解釈がありうる。答えが同じであるということは決して超時間、超空間的であることを意味しないのである。

数学が人間と社会とによる知的活動の歴史的産物であるとすれば、当然数学は孤立したものではなく、文化全体の有機的構成部分であって、文化の他の分野との緊密な連帯性をもつ。この連帯性は今日とくに強調しておく必要がある。なぜなら、数学は常に孤立する危険をそれ自身のなかに内包しているからである。とくにヒルベルトの『幾何学の基礎』(一八九九年)によって明確な形を与えられた現代数学にとつてはとくに重要なことである。

登場してきたはじめのころは「公理主義」とよばれていた現代数学は、内部矛盾をふくまない公理系を設定しさえすれば、それはもう一つの数学としての市民権を獲得するのだ、という性急な考えを広めたことは事実である。公理系が矛盾をふくまないことは必要条件であることはたしかである。矛盾があつたらお話にならないからである。しかしそれは十分条件であらうか。

ヒルベルトの『幾何学の基礎』はユークリッド幾何学のほかに無数の幾何学が存在しうることを示した。ではそれらの幾何学のなかでなぜユークリッド幾何学がもつとも早くから、しかも微に入り細にわたつて研究されたのであろうか。それはいうまでもなくユークリッド幾何学の空間が、実在の空間にもつとも近いからである。「公理主義」の浅薄な把握は、ある時期にはつまらない数学的構造を数学のなかに引き入れるという傾向を生みだしたことも事実である。

このことをブルバキにならつて建築術にたとえてみよう。ブルバキは数学的構造を建物にたとえたが、そうなれば公理系は設計図に当たるだろう。建築技師は力学の法則に従っているかぎり、どのような設計図を画くこともできるし、またその建物を建てることができるだろう。その点で彼は自由である。同様に数学者が論理の法則に従うかぎり、どのような公理系を設定しようと自由なのである。

しかし、彼らの設計した建物や数学的構造がよい建物か悪い建物か、よい数学的構造か悪い数学的構造かを判断することはできない。⁵それは次元のことなる問題なのである。よい建物か、悪い建物かの判断は力学の法則とは別の規準による。それはその建物が人間や社会とどうかかわり合うか、そのことがらを論じられるべきものである。建物を使うのはまさに人間であり社会だからである。

同じことが数学についてもいえる。数学は人間のためであるから、その逆ではない。一つの数学的構造は人間が自然や社会の法則を探究し、それによって自然や社会を人間のために造りかえていく上で、役に立てば立つほどよい数学的構造だということになるだろう。このような観点が抜け落ちてしまうと、数学は、ワイルのいうように、将棋のような知的遊戯の一種となってしまうだろう。⁶

そうかといって近視眼的な実用主義をここで主張しているのではない。数学にかぎらず科学はたんに応用によって物質的な幸福を人間にもたらすために偉大なのではない。そのようなものはなくても、人間の視野を拡大し、不必要な恐怖心を取り除いてくれるという点でもまた偉大なのである。

数学は孤立した学問ではなく、他の学問文化との連帯のなかで発展してきた、ということとは常に銘記しておく必要がある。その理由の一つは現代数学がそのような危険を内包していることにある。さらに第二の理由は日本の数学そのものの性格からくる。日本の数学にはとくに孤立化の傾向が強いからである。これは後進国の一般的傾向(アメリカ)でもあるが、日本の場合は「和魂洋才」とも関係がある。⁷

そのことはわれわれが数学教育の建設運動をすすめていくうえで常に念頭におく必要がある。われわれの運動には多数の数学者が参加してくれることが望ましい。とくに現代数学の方法を教育にとり入れようとするばあい、研究の第一線で活動している数学者の思考方法から多くのことを学ばねばならない。だが、常にそうであるが、盲従は禁物である。⁸とくに日本の場合、ある数学者が孤立主義に侵されているかどうか、いつでもチェックしておくだけの警戒心をもたねばならない。数学という学問の根本的性格の一つとして、「数学は学問的に孤立する危険を常に内包している」ということがいえるだろう。だからこそ、他の学問分野との連帯性を常に強調しておくことが大切なのである。

以上のことは、なにも高級な学問論論ではない。小学校の算数にも現にでてきている問題である。たとえば、近ごろの「集合ブーム」で集合でなければ夜もあけぬ有様だが、いろいろおかしなことが起こっていることも事実である。「集合」というのははじめからむずかしくてわからなかったが、いちどわかってしまうと、つまらないものだ。こんなものをなぜ先生はもつ

たいぶって教えるのかわからない」という子どもがたくさんでてきたという。子どもの批判はまったく正しいし、また、「集合ブーム」の欠陥をよく衝いている。

⁹ がんらい集合は現代数学の出発点ではあるが、決して到着点ではない。カントルの集合論そのものがそういう役割をもっていた。既存の構造をひとまず最小の原子にまで粉碎してみることがカントルの集合論のねらいであった。だからもし数学がカントルの集合論にとどまるなら、数学は砂漠のような荒涼たる学問になっただろう。だが、幸いなことに数学は集合論のところで停止しはしなかった。いちど原子にまで打ち砕かれた要素を、再び公理系によって結びつけ、多彩な構造をつくりだす方向に向かった。そういう意味で集合論は一度は必ず立ち帰るべき再出発点にすぎなかったのである。

数学教育でもまったく同じである。集合から量や論理、空間……というより豊富な世界に発展していかないかぎり、それは無意味なものであり、子どもたちを退屈がらせるだけのものになってしまう。

(遠山啓「数学は学問的に孤立する危険をもつ」)

〔注〕ヒルベルト：一八六二～一九四三。二十世紀の数学の様々な分野に影響を与えたドイツの大数学者。ブルバキ：数学の「現代化」を推し進め大きな影響を与えた数学者グループ。ワイル：一八八五～一九五五。二十世紀前半を代表する数学者の一人。カントル：一八四五～一九一八。素朴集合論を創始した数学者。

問一 傍線部「まず最初にあげるべきはその普遍性であろう」について、「普遍性」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 数学の命題は民族や習慣、さらには学問文化や歴史も超えて常に真であり、また数学研究への貢献も民族等にかかわらず全人類的規模で同時に行われるということ。
- b 数学の内容は、民族等の違いを超えていかなる人間にも同様に理解され、数学への貢献も民族等の違いを超えて全人類的規模で行われてきたということ。
- c 数学の問題に対する答えは常に一つであり、したがって数学の内容は他の学問文化や民族等に左右されない真理であるということ。
- d 数学は全ての学問の基礎であり、また全宇宙を貫く真理を扱っているという意味で他の学問に対して優越性を持っているということ。

問一 傍線部2「それに劣らず重要なのは数学の歴史性である」について、「数学の歴史性」とは何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 数学も他の学問と同様に文化の中で生じてきたものであり、したがってその内容もその社会の文化や歴史上の事実を直接的に反映したものにならざるを得ないということ。

b 数学はきわめて長い歴史を持つ学問であり、したがってどのような数学上の発見もそれにいたる歴史的経緯を考慮しないとその真偽は決定できないということ。

c 数学という学問が、天の一角から与えられたものではなく、人間の社会の中で他の科学・文化と複雑な相互作用を起しながら進展してきたものであるということ。

d 数学という学問は普遍的な命題のみから構成されており、時間と空間を超越した真理だけを扱う分野であるということが否定された、その歴史的事実。

問三 傍線部3と同じ内容を他の言い方で表すとしたらどう言えばよいか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 公理系が矛盾をふくまなければ、それだけでその公理系は数学としての市民権を獲得することになるのか。

b 矛盾を十分にふくまない公理系は、数学としての市民権を獲得できないのだろうか。

c 矛盾をふくんでいる公理系は、数学としての十分な市民権を獲得できないことになるのか。

d 数学としての市民権を獲得する公理系は、常に矛盾をふくんでいるわけではないのだろうか。

問四 傍線部4のように著者が言う理由として、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a ユークリッド幾何学を用いれば様々な実際の応用が可能で大きな物質的幸福を人類にもたらすので、もっとも便利な幾何学として長い間研究されてきた。

b 学問文化の歴史的要因を考えると、ユークリッド幾何学は文化の他の分野と矛盾がないので、長い間にわたって、よい数学的構造とされてきた。

c ユークリッド幾何学の体系こそが、人間が実在の自然や社会を理解する上でもっとも役に立つ、よい数学的構造なので長い間にわたって研究されてきた。

d 数学の普遍性と歴史性を考えると、公理主義は浅薄な理解に基づく誤った考えであり、だからこそユークリッド幾何学だけが長い間にわたって詳しく研究されてきた。

問五 傍線部5はどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 力学の法則と論理の法則とは次元がことなり、したがって、設計された建物と構築された数学的構造の良し悪しを同一の次元で論じることができない。

b 力学の法則や論理の法則に従っているかぎり設計は自由であるが、出来上がった建物や数学的構造がどのような価値を持つかは、人間や社会との兼ね合いで決まる別種の問題である。

c 力学の法則と建築術の関係、あるいは論理法則と数学との関係は、次元がことなる問題であり、その良し悪しを同じ規準で決定することはできない。

d 力学の法則や論理の法則に従っているかぎり設計は自由であるが、出来上がった建物の価値を決める規準の次元は数学的構造の価値を決める規準とはことなる。

問六 傍線部6は何を意味しているのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 数学は実用のための学問であり、この観点が抜け落ちてしまうと、それは日常生活に何も役に立たない一種のゲームになってしまう。

b ワイルが勧めるように、数学は人間による自然理解という観点を離れて、将棋のような知的遊戯の一種になるべきである。

c 建築術と数学を結びつけるといふ観点が抜け落ちてしまうと、数学は現実との接触を失い知的遊戯の一種になってしまう。

d 人間による自然の理解という観点が抜け落ちてしまうと、数学研究は自己目的化して一種のゲームの類なまいに堕おしてしままう。

問七 傍線部7の「和魂洋才」とも関係がある」とは具体的にはどのような事態を指していると考えられるか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 数学研究が西洋から日本に輸入されたとき、その技術的側面のみを取り出して輸入し、背後にある他の学問文化との歴史的関係を数学から切り離したこと。

b 数学の成果を西洋から輸入するにあたって、和算などの日本古来の伝統に固執して西洋数学の方法を全面的に拒否してしまったこと。

c 西洋数学の成果を日本に輸入したときに、日本人の数学者同士で研究を行い、西洋の数学者と共に研究を行うという態度が欠如していたこと。

d 西洋数学を日本社会に導入するにあたって、偏狭な民族主義ゆえに日本独自の数学を目指す傾向が強すぎて、学問的孤立主義に向かってしまったこと。

問八 なぜ著者は傍線部8のように言うのか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 江戸時代の日本人の業績ゆえに、日本の数学者は数学が全人類的科学であることを軽視しがちであるから。
- b 偏狭な人種差別に対する反発が日本の数学者を孤立主義にはしらせる傾向があるから。
- c 西洋では数学が他の学問文化と連携して発展してきた歴史があるが、日本ではそれが軽視されてきたから。
- d 研究の第一線で活動している数学者にかぎって、単独での研究活動を好む孤立主義的傾向が強いから。

問九 傍線部9の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 集合論は、現代数学全ての基礎を提供するという意味で出発点であるが、それ自体は豊かな構造を持たず、数学的に豊かな構造を探究していく作業はそこから始まる。
- b 現代数学は集合論を出発点として始まったが、その後、様々な方向に拡散した結果、集合論を基礎としては豊かな構造を構築できないことがわかった。
- c 現代数学は集合論を出発点として始まり、集合論の中で完結することを目指したが、数学教育の観点から多彩な構造が必要であることがわかった。
- d 集合論は、現代数学がそこを出発点として始まったという意味で歴史的意義を持つが、すでに時代遅れになってしまっている。

問十 本文の趣旨に合致するものを、次の中から二つ選べ。

- a 数学という学問は公理系としての意義だけでなく、内容を兼ね備えた学問であり、その内容は、人間による自然や社会の理解を反映したものである。
- b 数学を砂漠のような荒涼たる学問にしないためには、建築や道路の建設のような応用面をもつと強化しなければならない。
- c 公理主義は孤立化を招きかねず誤っているので、数学は、その歴史性を重視してユークリッド幾何学のような古典に戻らなければいけない。
- d 数学が全人類的科学であることは強調されるべきであるが、同時にその歴史性も十分に念頭において数学教育を進めていく必要がある。
- e 数学の普遍性と言われるものは、数学には豊かな民族的・文化的歴史性があるということによって、実は成立しないということがわかる。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

アはなそのおとど
花園大臣の御許に、はじめて参りたる侍の、名簿の端書に、「能は歌よみ」と書きたりけり。殿の秋の初めに南殿に出でて、機織の鳴くを愛しておはしけるに、暮れければ、「下格子に人参れ」と仰せられける。「蔵人の五位、たがひて、人も候はぬ」と申して、この侍の参りたるを、「ただ、おのれ、下ろせ」とありければ、参りたるに、「汝は歌よみとな」とありければ、かしこまりて、格子下ろしさして候ふに、「この機織をば聞かや。一首つかまつれ」と仰せられければ、「青柳の」と五文字を出したるを、候ひける女房たち、「折に合はず」と思ひたりげにて、笑ひ出でたりけるを、「ものを聞きはず、笑ふやうやはある」と仰せられて、「とくつかまつれ」と仰せられければ、

(A) 青柳の緑の糸をくりかへし 夏へて秋ぞ機織は鳴く

とよみたりければ、萩織りたる直垂を押し出して、たまはせてけり。

寛平の歌合に、初雁を、友則、

(B) 春霞かすみていにし雁がねの 今ぞ鳴くなる秋霧の上に

とよめる。左方にてありけるに、五文字を詠じたりける時、右方の人、ことごとく笑ひけり。さて、次の句に、「かすみていにし」といひけるにこそ、音もせずなりにけれ。

ものを聞きもはず、ひたさわざに笑ふこと、あるまじきことなり。また、さやうに思ひがけぬことも、よむまじきにや。また、人ありて、まことのあやまりをしたりとも、わがため苦しみのなからむに、あながちに難じそしりても、なにかせむ。

(『十訓抄』)

〔注〕○花園大臣 源有仁。一一〇三〜一一四七。 ○名簿 官位、姓名、月日などを記入した名札。弟子や家人として入門したり、出仕したりする時、提出する。 ○機織 秋に鳴く虫。今のキリギリスかという。 ○藏人の五位 六位の藏人が五位に昇って、殿上を退いた者。 ○寛平の歌合 宇多天皇在位中の寛平年間(八八九〜八九八)に開催された歌合。
○友則 紀友則。生没年未詳。九〇五年没かという。

問一 傍線部1「能は歌よみ」とあるが、どんなことが言いたかったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 和歌も一応は詠めます。あまり得意ではありませんが。
- b 和歌を詠むのが得意です。何かの機会にお役立てください。
- c 武士としてはお役に立てませんが、和歌の知識には自信があります。
- d これまでは歌人としてやってきましたが、もう引退しました。

問二 傍線部2「たがひて」とあるが、どういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 意向に背いて
- b 予測と違った結果になって
- c 行き違いになって
- d 間違って

問三 傍線部3「おのれ」とあるが、誰を指しているか。波線部ア〜キの中から二つ選べ。

問四 傍線部4「格子下ろしきして候ふ」とあるが、なぜそのようにしたのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 仕事の内容が変更になるのかと思ったので、格子を下ろすのを途中でやめた。
- b 初仕事を無事終えてほっとしたので、格子を下ろしてからそこに控えた。
- c 和歌を詠めと命令されると知り緊張のあまり、格子を下ろしかけたまま控えた。
- d 歌人の前歴について質問されるのかと思ったので、格子を下ろさないでそこに控えた。

問五 傍線部5「折に合はず」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 「機織」は秋の虫であり、「青柳」は春の新芽なので、季節が合わない。
- b 「機織」は野原の虫であり、「青柳」は川辺の植物なので、場所が合わない。
- c 「機織」は布を織ることなのに、「青柳の」は「糸」に掛かる枕詞なので、折(織り)には至らない。
- d 和歌は貴族や女房が詠むものなのに、武士が詠むのはこの場にふさわしくない。

問六 傍線部6「ものを聞きはず、笑ふやうやはある」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 最後まで聞かなくても、失敗したと思ったら、笑われて当然である。
- b 最後まで聞いてしまってから、失敗だと思って笑うと、逆に笑われますよ。
- c 最後まで聞いても、まったく笑えなかったら、失敗ですね。
- d 最後まで聞かないで、失敗だと思って笑ってはいけません。

問七 (A)の和歌の説明として正しくないものを次の中から一つ選べ。

- a 「青柳の」は「糸」に掛かる枕詞であるが、同様に「緑」にも掛かる。
- b 「機織」は虫の名であるが、機を織る意も掛けている。
- c 縁語や掛詞の修辞技巧を縦横に駆使した玄人好みの詠み方である。
- d 修辞技巧の多彩さよりも秋を迎えた悲しみの方が人の心を打つ。

問八 傍線部7「友則」は『古今和歌集』撰者のひとりである。他の撰者を次の中から二人選べ。

- a 壬生忠見
- b 凡河内躬恒
- c 紀貫之
- d 在原業平
- e 藤原定家

問九 (B)の和歌の説明として正しいものを次の中から一つ選べ。

- a 「春霞」と「秋霧」とを対照させるが、季節感以上に雁の生命力が感じられて美しい。
- b 「今ぞ鳴くなる」の「なる」は伝聞推定の助動詞で、「聞こえる」の意味である。
- c 「雁がね」は「雁が音」の意味で、ここでも「雁の鳴き声」を示す。
- d 「初雁」はその年初めて見た雁のことで、後世、春の季語になった。

問十 「右方の人」が、傍線部8「ことごとく笑ひけり」から傍線部9「音もせずなりにけれ」に変化したのはなぜか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 「初雁」は春のものであるのに、秋のものとして詠もうとしていることがわかったから。
- b 「初雁」は春のものであるのに、秋のものとしても詠めることがわかったから。
- c 「初雁」を春のものと勘違いしたと思って笑ったが、実は秋のものであることがわかったから。
- d 「初雁」を春のものと勘違いしたと思って笑ったが、季節の推移を見事に表現していたから。

問十一 傍線部10「思ひがけぬこと」と傍線部11「まことのあやまり」とはどちらがうか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 意外な展開を見せる構成力のある詠み方と、単純に季節などを勘違いした詠み方との違い。
- b 自分でも想定外の展開を見せる詠み方と、他の人たちも間違っただけで解釈してしまう詠み方との違い。
- c 詠んでいる途中で間違いに気が付いて修正がきく詠み方と、きかない詠み方との違い。
- d 作者の技量を發揮して意外な展開を見せる詠み方と、發揮できない平凡な詠み方との違い。

問十二 傍線部12「わがため苦しみのなからむに、あながちに難じそしりても、なにかせむ」とあるが、ここからこの文章の作者のどのような考え方が見えるか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 自分にとって格別不都合がなければ、他人の失敗などには介入しない方がよい。
- b 他人の失敗についても、自分の都合のよいように解釈できればそれでよい。
- c 自分が失敗してもよいように、他人の失敗には見て見ぬふりをするのがよい。
- d 自分が失敗することはないのだから、他人の失敗は徹底的に追及するのがよい。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送り仮名を付していないところがある。

夫含^レ氣^{ミテ}有^レ生^{レバ}、無^ク不^{ズル}有^ラ識[、]有^{リテ}識^而有^{レバ}行[、]隨^{ヒテ}行^善惡^ニ而^受其^報。如^シ

農夫之播植^{シテ}、隨^{ヒテ}所^ニ植^{ウル}而^收之[。]此蓋^シ物之常理[、]固^{ヨリ}無^レ所^レ可^レ疑^フ也。

X 達^{スレバ}其本源^ニ、知^{リテ}而無^ク見[、]下愚^ハ闇^ニ其蹤跡^ニ、迷^{ヒテ}而不^ト返^ラ、皆^ト絶^言

也。中品之人、未^{イマ}能^タ自^ラ達^{スル}、隨^{ヒテ}緣^ニ動^{カシ}見[、]遂^ニ見^ハ生^疑。疑^ト見^ト多^ナ端^{レバ}、各^オ懷^ク

異^ヲ。執^{リテ}釈^典論^ニ其分別^ヲ、凡^オ有^リ六十二見[。]邪^ハ倒^カ於^レ是^乎生^{ズル}者也。

臨^ハ在^リ中^人之^後。幸^{ヒニ}而寤^サ其万^一。比^ル見^ル衆^人不^レ信^ニ因^果者^ヲ說^レ見^雖

多^{シト}、同^{ジク}謂^フ善^惡無^レ報^ト。無^レ報^之說^ニ、略^ホ有^リ三^種。一^ハ者自然[。]故^ニ無^レ因^果。

唯^ハ当^任欲^待事^而已[。]二^者滅^尽。言[、]死^而身^滅、識^無所^レ住[。]身^識都^ト

尽[、]誰^カ受^{ケム}苦^樂。以^テ無^ク受^{クル}故[、]知^レ無^ク因^果。三^者無^レ報[。]言[、]見^ル今^人有^ル

修^{ムルコト} 道^ヲ 德^{ナレバ}、貧^{ナレバ} 賤^チ 則^シ 早^ハ 死^{フモ}、或^ハ 行^ニ 凶^ヲ 惡^{ナレバ}、富^{ナレバ} 貴^{ナリ} 靈^{ナリ} 長^ヲ。以^テ 是^ノ 事^ヲ 故^ニ、知^ル 無^キ 二

因果^一。

臨^{ヒソカニおもフニ} 窃^ハ 謂^{ズルコト}、儒^ハ 書^ハ 論^ニ 善^ヲ 惡^ヲ 之^シ 報^ニ 甚^ダ 多^シ。近^キ 者^ハ 報^イ 於^ニ 当^ニ 時^ニ、中^{ナル} 者^ハ 報^イ 於^ニ 累^ニ 年^ノ 外^ニ、遠^キ 者^ハ 報^ユ 於^ニ 子^ノ 孫^ノ 之^シ 後^ニ。

(「冥報記」序)

〔注〕○氣―万物生成の根源 ○識―認識 ○播植―種まくことと苗を植えること ○蹤跡―行動のあと、事蹟 ○釈典―仏典

○六十二見―六十二の異端の説 ○臨―冥報記の撰者、唐臨の自称

問一 本文冒頭では、何を何に例えているか。次の中から適切なものを二つ選べ。

- a 「氣」を種に例えている。
- b 「善惡」を「常理」に例えている。
- c 「報」を収獲に例えている。
- d 「識」を「農夫」に例えている。
- e 「行」を「播植」に例えている。

問二 空欄Xに入る語として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 上智
- b 上品
- c 上戸
- d 上愚

問三 傍線部1「無見」、傍線部3「動見」の「見」はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものをそれぞれ一つ選べ。

- a 面会
- b 出現方法
- c 認識作用一般
- d 誤った見解

問四 傍線部2「絶」、傍線部7「比」と同じ字義で用いられているものはどれか。次の中からもっとも適切なものをそれぞれ一つ選べ。

- 2 a 絶技
- b 絶交
- c 絶後
- d 絶海
- e 気絶
- 7 a 比定
- b 比况
- c 比肩
- d 比来
- e 無比

問五 傍線部4「多端」、傍線部6「万一」はそれぞれどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- 4 a 複雑多岐
- b 多事多忙
- c 多情多恨
- d 好事多魔
- 6 a ひよつとして
- b 端から端まで
- c ほんの少し
- d 偶然

問六 傍線部5「中人之後」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 中品の人の子孫
- b 中品の人の背後
- c 中品の人の末席
- d 最後の中品の人

問七 傍線部8の書き下し文として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a ただ任に当たりて事を待たんと欲するのみ。
- b ただまさに事を待ちて欲に任すべきのみ。
- c ただまさに欲に任せ事を待つべきのみ。
- d ただ任に当たり欲は事を待つのみ。

問八 唐臨は、二重傍線部「無報之説」として三種を挙げ、その理由を述べているが、これに当てはまらないものを、次の中から二つ選べ。

- a 人類が消滅すれば、苦楽を享受する者も消滅するから。
- b 道徳を修養しても貧しければ早世し、凶悪なことをしても裕福ならば長寿であるから。
- c 死んで身体がなくなれば、苦楽を認識することもないから。
- d あるがままの自然に因果関係などあり得ないから。
- e 身分の低い有徳者より、身分さえ高ければ凶悪犯の方が長生きするから。

問九 以下の例は、傍線部O「近者」、傍線部P「中者」、傍線部Q「遠者」のどの例に当たるか、それぞれマークせよ。

- a 始皇帝が暴虐であつたために子孫が滅んだ。
- b 先祖が職分を全うしたので、孔子は儒教を天下に広めることができた。
- c 楚の恵王が臣下をかばつて蛭を飲み込んだところ持病が治癒した。
- d 孫叔敖は幼い時、目にするると死ぬという両頭の蛇を殺し、他人の目に触れぬように埋めたところ、後に大出世した。
- e 宋の襄公が行うべき祭祀を捧げなかったところたくさんの隕石が墜ちた。





